

2. 富士町小児の歯科実態調査結果について

○久保山博子、石井 香、尾崎 正雄
田中美絵子、塚本 末廣、吉田 穰
(福歯大・小児歯)

山村部における小学生の齲蝕罹患率は、文部省の学校歯科保健統計検査によると、戦前は全国平均に比べて低い値であった。しかし、昭和47年頃から全国平均より高い値を示すようになってきたと言われている。これらの原因については、未だ不明の点が多いが食生活などの生活環境の激変によるところが大きいと考えられる。幸い我々は福岡県と佐賀県の県境にある山村、富士町の全小児の口腔検診を行う機会を得たので、その結果の一部を報告し原因解明の一助にしたい。

調査は、富士町在住の保育園児 140名、幼稚園児 65名、小学生 454名、中学生 218名を対象に齲蝕罹患状態、カリエスタット、及び生活環境等のアンケート調査を行った。その結果は次の如くであった。

- 1) 乳歯齲蝕罹患率は、1～6歳(保育園、幼稚園)では85.35%、7～9歳(小学校低学年)では91.6%、10～12歳(小学校高学年)では39.1%、を示した。
- 2) 永久歯齲蝕罹患率は、7～9歳(小学校低学年)では72.9%、10～12歳(小学校高学年)では94.0%、13～15歳(中学生)では94.9%を示し、齲蝕の多発傾向が認められた。
- 3) アンケート調査からは、都市部の小児達よりも齲蝕誘発性の高いおやつや清涼飲料水類を欲しい時にいつでも食べたり、飲んだりする傾向があることが認められた。
- 4) その他アンケート項目の検討結果、興味ある所見を得たので報告する。